

体験過程スケールのセラピスト・バージョンからみた Rogers の心理療法

—Jan の事例 (1986) の EXP 評定からの考察—

関西大学大学院心理学研究科 中田 行重
長船 紀子・佐藤 春奈
高谷 唯・横谷 幸美

要約

Rogers (C. R.) による Jan の事例 (1986) は彼の直観的な反応や意識変容状態など、中核条件と異なる概念を用いた理論化がなされている。本稿はこれを EXP スケールのセラピスト・バージョンで評定した。直観的な反応がどうセラピーの成功に結びつくのか、また、行き詰まりのクライアントをフォーカシングの立場に立たない Rogers がどのように対応するかを EXP スケールの立場から探った。その結果、直観的な反応は TM5 の維持が鍵であると示唆された。

キーワード：EXP スケール、セラピスト・バージョン、Rogers の Jan の事例

I. 問題と目的

体験過程スケール (Experiencing Scale、以後 EXP スケール) はクライアント (Client、以後 Cl とする) に適用するもの (1970) と、セラピスト (Therapist、以後 Th とする) に適用するものがある (1986)。本稿では後者をセラピスト・バージョン (Therapist Version、以後 Th.V.) と呼ぶことにする。Th.V. は Cl と Th の相互作用を検討する道を開き、特に両者の関係を重視する Person-Centered and Experiential (PCE) の立場にとっては重要な道具と思われるが、未だこれを使って関係性の知見を得たとの報告はない。本稿は Rogers (C. R.) の出版済みの逐語によるケース記録に Th.V. の評定を行うものである。

EXP スケールはフォーカシングの Short Form (1981) に似た段階を踏んでおり、心理

療法の成功を、問題のフェルトセンスを感じ、象徴化してシフトするという経過を想定していると思われる。では、通常の対話カウンセリングが成功する場合、Th はどんな関わりをするのか。カウンセリングは通常、1回で終わらないので、成功する事例を調べるには複数回の経過の調査が必要だが、それは1ケースだけでも膨大な作業量になる。そこで、本稿ではそのような研究の先駆けとして1回限りの面接で肯定的な変化がみられる例として、Rogers による Jan の事例 (Rogers, 1986) の評定を行う。

また、これは晩年の Rogers が中核条件に加え、直観を言語化して Cl に伝えたことが展開点になっていることでも有名な事例である。本稿では評定を通じて直観的な反応がいかに治療的になりうるか、また行き詰まりの Cl をどう支えるかを体験過程の視点から考えるものである。

II. 評定例

Jan の事例の逐語として『Rogers Reader (Kirschenbaum & Henderson, 1989)』の中の翻訳(伊東・村山, 2001)を用いる。Rogers の発言には T (Therapist)、Jan の発言には C (Client)、および発言順の番号を付す。EXP ス

ケール値として Cl は Peak、Th は Referent (TR) と Manner (TM) の2つの値を評定する。TR とは、Cl の体験過程のどの段階を Th が指しているかを示す値であり、TM とは Th 自身の体験過程の段階を示す値である。なお、終結部の挨拶的な会話部分の評定は省略する。×は評定不能の意味である。

順序	発言	Client Peak	TR	TM
T1	(省略) あなたがどんなことを話しても、しっかりと聞く準備が来ています [沈黙]。			3
C1	私は二つの問題を抱えています。一つ目は結婚と子どもということに対する恐れで、もう一つは年を取るといふか、老いることです。将来のことはとてもわかりにくいのですが、とても怖い気がするのです。	3		
T2	それがあなたにとっての二つの大きな問題なんですね。どちらを先に取り上げましょうか。		2	3
C2	差し迫っているのは年をとるほうの問題です。そちらから始めたいのですが。もし、そのことで何か助けていただけたら非常に有り難いのですが。	2		
T3	あなたのその、年をとることの恐れについてもう少し話していただけますか。		3	2
C3	私、パニック状態になっている感じがするんです。私は35歳で、40歳まであとたった5年しかなくて—なんと説明したらいいか、とても難しいのですが。何かぐるぐる同じところを廻りつづけていて、そこから逃げ出したいんです。	3		
T4	それがとても恐いんですね。あなたは本当に—。それでパニックになってしまうんですね。		3	4
C4	ええ、私の個人としての自信が脅かされているんです (T フムフム)。ついこの18カ月、2年の間なんです、このことに急に気づき始めたのが。あー、なんてことかしら、何もかも私を追いだててしまって—。なぜこんなふうに感じてしまうのかしら？	3		
T5	おそらく1年半前くらいまではこんな気持ちになったことがなかったんですね [沈黙]。そのころ、そのきっかけになったと思われるような何か特別のことがあったのですか。		3	4
C5	思い出せるものはとくに何もありません、本当に。そうですねー、私の母が死んだのは53歳のときで (T フムフム)、まだとても若く—そしていろんな面で才能をもっていました。でも、もしかしらそのことが私のパニックと関係があるかもしれません。よくわかりませんが。	2		
T6	あなたのお母さんがその若さでなくなったのだから、あなたにもその可能性がある、そんな感じがあるんですね [沈黙]。そしたら時間があまりにも短いと感じられ始めたんですね。		5	6
C6	そうなんです！	×		
C7	母の生涯を考えたとき、—母は多くの才能に恵まれていたのですが、—不幸なことに晩年には、惨めな女性になっていきました。世のなかで彼女にそういう生き方をさせたのです。私はだからそういう状態には絶対になりたくありません。そして今の時点では、そういう状況にはありません。今まではとても豊かな人生でした—非常に楽しく、またときにはとても悲しいこともあり—。多くのことを学んだし、またこれから学ぶべきこともたくさんあります。とはいっても、—やっぱり、私の母に起こったことが私にも起こりつつある、というような感じがするんです。	3		
T7	それが、何か亡霊のようにつきまとっているんですね。あなたの恐怖の一部には「母に起こったことを考えたら、私も母と同じ道をたどっている (C そうです)。そしておそらく、私も同じように何もできなかったという思いを抱くのかな？」とってしまうんですね。		5	6

体験過程スケールのセラピスト・バージョンからみた Rogers の心理療法

C8	[長い沈黙] もう少し私に質問はありませんか。私についての情報がお役に立つと思いますけど。私にはできないんです、いろいろなことが渦巻いていて (T フムフム) ぐるぐると廻っているんです。	2		
T8	あなたの内部では物事があまりにも速くぐるぐる廻っていて、どこをつかめば (C どこから始めたら) いいのか全くわからない。もう少しお母さんの人生との関係について、またそれについての恐れを話してみたいですか、それともほかに何か?		4	6
C9	だけど年をとればとるほど、結婚生活の状況について強く考えてしまうんです。今となつてはこの二つのことが関係しているかどうかわかりません。でもとにかく、結婚して、自分を拘束し、子どもができること——これはとても、とても恐い感じがするんです。そして年をとるにつれてだんだん恐くなってくるんです。	3		
T9	自分を拘束することが恐い、子どもができるのが恐い、ということですね?そして、そんなこと全部が恐怖となって、その恐怖心全体がふくらんできてるように思われる、と。		5	5
C10	そうです。自分を拘束することは恐くないんです。例えば、仕事とか友だちとか、何かをするときにも。だけど結婚となると私には、とても——。	3		
T10	それで、あなたは責任感がない、とかそういう人ではないということですね。(C ええ、全然そうではないんです)。自分を仕事に拘束することもあるし、友だち関係もある。ただ結婚生活となると、それに束縛されてしまうんじゃないかと思ってしまって、それがとても恐い。		4	4
C11	[長い沈黙の後] 私が話したほうがいいのですか。	2		
T11	私としては、あなたが、頭のなかでぐるぐる廻っていることについて何か取っ掛かりがつけられるようにお手伝いできたらと思っています。		2	4
C12	うーん [沈黙]。私、実際、今日ここに呼び出されるなんて思っていませんでした。わかっていたらリストを作って来たかったわ! [沈黙]。私の問題となると——私が本当に好きなのは芸術なんです。音楽とダンスに夢中になっています。できたら何もかも投げ出して、自分の人生を音楽とダンスに注ぎ込めたらと思うんです。だけど残念なことに、私たちが今住んでいるこの世のなかでは、仕事をして、ある社会的基準を守らなければなりません。できなくて悔やんでいるというのではなく、やらないとさみしいし、本当にやりたいことなんです。でも、どうやったらいいのでしょうか。そのことが何か関係があるのでしょうか——つまり、だんだん年をとってきて、いつも後ろを振り向いては、戻ってくることを繰り返している、ということと——。	2		
T12	あなたがおっしゃっているのは、あなたは確かに人生の目標をもっている、本当にやりたいことがある、—— (C はい、そうです)、つまり音楽や芸術に集中したい。けれども、社会がそれを妨げていると感じている。でも、あなたがやりたいと思っているのは、ほかのことはすべて投げ出して、好きな音楽に熱中することなんです。		2	4
C13	そのとおりです。	×		
C14	この18カ月の間、すべてが、——本当に不思議なことですが——状況は重大なところにさしかかっていました。私はいつの間にか、人は年をとるにつれてだんだん我慢強く、忍耐強くなるもの、と思うようになりました。今まで、本当に心配ごとなんてありませんでした。今が初めてなんです。本当の問題というものをもったのは。だから、それにどう対処していいかわからないんです。	3		
T13	あなたには、この18カ月の間に、すべてのものが、とてもとても重要なものに思われてきたんですね——生活のあらゆる瞬間、あらゆる局面が (C そうです)、もっと重大でもっと興味深いものに思われてきたのです。そして「どうしたらいいだろうか?」という疑問が一層深いものに思われてきた。		3	4
C15	[沈黙] カール先生、ひとつ質問に答えて下さいませんか。先生には、結婚生活のことと、年をとるということが関連があると思いますか、それともないでしょうか。	2		
T14	そうですね。あなたのお話のなかでは、この二つは関連しているように思われますね。年をとる恐れだけに限らず、結婚生活や子どものこと、自分を拘束する恐れも、ときがたつにつれて大きくなり、恐怖の塊のようになったと、あなたは言っているように私には聞かれます。それと並行しながら、あなたは「私が本当に打ち込みたいことはわかっているけど、——ただ、できないだけだ」とも、おっしゃっていますね。		4	4

C16	うーん。そしてそれは——放棄するという感じとは全然違うんです。ただ畏にはまってしまおうという恐れなんです。ちょうど今、私が年齢のことで畏にはまっているように、ですね。	5		
T15	畏にはまってしまおう、という感じなんです。今年という年 (year) にはまって、今の年齢にはめられて、そしてまた結婚生活についても畏にはまってしまおう [沈黙]。そして人生は恐ろしい見通しになってきたと。		5	5
C17	ええ [沈黙]。私はまだそれを引きずっているんですね (C フンフン)、そして、私の内面の奥深くにそれを沈めておこうとしています [沈黙]。私、職場に行って「お願い、助けて。私、35歳なんです。これからどうしたらいいでしょうか」なんて言えません。そういうこととは全然違うんです。その気になれば私、まだショートパンツをはいておさげ髪にすることもできるんです。でもそういうことではないんです。これは——これは、畏にはまってしまおうことへの恐れなんです。	4		
T16	そしてあなたが抱えている恐れは、あなたが世のなかでなんとかやっていくのを妨げるわけではないんですね。それはそれで大丈夫なんだけど、やっぱりこの恐れは内側の深い所にあつて、何よりも大きな恐れは、畏に引掛かるんじゃないかという恐れなんです。		5	5
C18	それにまだ、「あなたは人生で最高の時期にいるのよ。すべてがうまくいっているじゃない」なんて言う人もいます。そういう人たちは、私が心のなかで感じていることをほとんどわかってないんです。	3		
T17	そうですね。だから外部からは、つまり見ている人には、あなたは最高の時期にいて、すべてがうまくいっている、というふうに見えるのだろうけど、それは内側からみたジャンではない。ジャンの内側はそれとは全然違うっているんですね。		5	5
C19	[長い沈黙——そして何かつぶやく] ほかに何か聞きたいことがありますか [カールと観衆から笑いが起こる]。私、とにかくこの高い所でひどく緊張しているんです。	3		
T18	好きなだけ時間をとっていいですよ。私のほうは、内面にいるそのかわいそうな怯えたジャンと仲良しになってきているように気がしていますから。		4	4
C20	ということは、私が話せば話すほど、そのことであなたが私を理解するのを助ける、ということですか。	2		
T19	私には、あなたが一層身近になってきている、ということです。		4	4
C21	このことは何か関係があるかもしれないし、あなたに役立つかもしれませんが——私が以前熱中していたアマチュア演劇と関係があるかどうかわかりませんが、いたずら好きの少女の役を演じるのはとても好きなんです。そして何かから逃れたいとか、何かしたいというときはいつでも私、あの腕白な少女の役を演じたいと思うんです。	3		
T20	それはあなた自身がとてもよく知っている面ですね (C [笑い])。多くの舞台でその役を演じてきたんですね (C しかもうまくいくんですよ!)。うまくいく——その腕白な少女はうまくやっていくんですね。それにもう一つ、あなたがおっしゃったことですが、あなたは私を助けようとしているんですね。私は、ここで私たちがやっていることが、あなたを助けることになって欲しいのです (C 有り難うございます)。[沈黙]。というのは——あなたが私にいろいろ話してくれるとき、それは私のためではない、という感じが私にはするんです。いろいろなことを話して下さることで、あなたが自分自身をよりよく知ることができれば、と私は望んでいます。		5	5
C22	私は、この問題について同じ経験をしたことがある一人の人と話し合ったことがあるんです。彼女は、外傷体験が人に及ぼす影響というものを知っています。彼女自身、似たような感情を体験したことがあるんです。そして彼女はこう言いました。「あれは、とっても変な感じだったけど、でも何とか克服できたわよ。ある時間かけてね——一人か二人の人に助けてもらってね」と。大事なことは [沈黙]、自分が信用し、信頼がおける人で、私とある時間を一緒に過ごすことができる人、そんな人と話すことができるということだと思います。でも、そういう人を見つけるのはとても難しいことです。	2		
T21	それでも、やはりあなたは、本当に信頼できる人で、この大変な時期を何とかあなたが通り抜け、成長させてくれるような人をもとめている、と。		5	5
C23	ええ、この畏にはまっている今 [笑い]。それでとにかく私、どう対処していいのかわからないんです。本当にわからないんです。	3		

体験過程スケールのセラピスト・バージョンからみた Rogers の心理療法

T22	あなたには少し大変すぎる問題だと感じておられるんですね。		4	4
C24	まあ、これは私の日常生活の一部なんです。目が覚めた瞬間から寝る瞬間までの。確かにこの問題を多くの人とは話していません。本当にその反動が恐いからだと思うんです。なんと同じ船に乗ったことがある人——私がどんな経験をしているかわかる人ですね——を探るのが大事だと思います。	3		
T23	それであなたは求めているんですね——誰かを。あなたにとって必要で、あなたが望んでいて、本当にあなたが信じることのできる誰かを。		4	4
C25	そうです。私、自分の力でやろうとしてるんですけど、なかなか簡単にはいきません。(T そうですね)。誰かが私を後押ししてくれて、何と言うか、「あなたができることはわかっている。やればできる。あなたはそれをしたいと思っている。もうしようとしている」みたいに言ってくれば、そうすれば——。	4		
T24	そうすれば本当に助かる。		4	4
C26	私を信じることのできる人が一人いてくれればいいんです。	4		
T25	あなたを信じている人が一人いて、「あなたは間違いなくできる。大丈夫。やり遂げることができると言っていればいいんですね。だけどあなたは自分に向かってそうは言えないんですね。		5	6
C27	そうです。そして自分でもやる気を出そうとして、そのことについて冗談を言ったりするんです。でも私、私…すごく恐いんです。後ずさりしてしまって、前に向かって行かない [長い沈黙]。これまで私、このことを脇におこうとしてきたんです。それについて考え始めると、それを止めようとしてきたんです。でもそんなことをしてもうまくいかないんです [沈黙]。今の状態は、比喩的にしか言えないんですが、暗闇のなかに迷い込んでしまったようなものです。明るい所から出てきて、暗闇のなかに入り込んだのです (T んー)。私の言っていることがわかりますか (T わかります)。今また、私、恐くなってきて——。	4		
T26	そして非常に危険だ、と。明るい所から暗闇のなかに、未知の世界に入っていくのは (C そうなんです)。こんな事態になって、とても恐ろしいんですね。		4	6
C28	[沈黙] この状態をどう克服するか。それ以外に言うことは思いつかないんです [沈黙]。今、この瞬間、こんなことはとても孤独な問題だという感じが確かにしています。それを経験した人もいんでしょう。経験してない人もいんでしょう。そして彼らはおそらく「何が問題なんだ？」って考えるでしょう。私は、ときには冗談さえ自分に言ったりします。「これを新聞の広告欄に出そうかしら。反響なんて [笑い] 返ってこないわよ」みたいに言って [沈黙]。それは笑いごとなんだけど、私は努めて笑いとばそうしてるんです。	4		
T27	でも、あなたとしては、ここに別の人がいて、外部の人がいてくれて、あなたに自信を与え、あなたがこの大変な時期を乗り切れるよう援助してくれることを、本当はとても望んでいるんですね。		5	5
C29	そうです。というのも、お祈りはするんですけど——私は宗教に対しては自分独自の考えがあって——霊的傾向は発達するというのを信じているからなんです。だからこれはわたしにとってはもしかしたら、業のなせる条件づけなのかもしれない、とも思うんです。もちろん、このことは、私の心のなかで起こっている全然別のことで、いわば私の発達の一部みたいなものです。でもそれだけでは足りない、やっぱり実際に誰かと直接に接触しなければならぬんです [沈黙]。私が話すことのできる誰かと——。	4		
T28	誰か話せる人ですね。そして—これはおかしな考えのように聞こえるかもしれませんが——その話せる友だちのひとり、あの腕白少女であつたらいいな、と思うんです。おわかりいただけるかどうかかわからないんですけど、あなたの内面に住んでいる、あの快活で腕白な少女だったら、明るみから暗闇のなかまであなたのお供ができるんじゃないかと思うんですが——こんなことあなたには全然意味をなさないかもしれませんが。		5	6
C30	[当惑したような声で] もう少し説明していただけませんか。	×		
T29	つまり、あなたの最も親しい友だちはあなたが内部に隠しているあなた自身、恐がっている少女、腕白な少女、つまり表にはそんなに顔を出さない本当のあなた自身ではないか、ということですけど。		5	6

C31	[沈黙] 実を言うと—今おっしゃったこと、そして振り返ってみると—これまで私は腕白な少女をすっかり失ってきました。実際、この18ヶ月のあいだ、その腕白少女はすっかり消えていました。	6		
T30	消えてしまったんですね。はあはあ、なるほど[笑う]。それじゃ、私もそんなに間違っ てはいなかったんですね。それでしたら彼女を探さなきゃなりませんね[笑う]。		3	6
C32	電話番号ですか[笑い声]。	×		
T31	ええ、知りたいです！[笑い声]。彼女は楽しそうだし、そう怖くもなさそうだし。けっ こ生意気でもあるし[笑い声]。		4	6
C33	[けげんそうな声で] そうすると私、だんだん年をとっても、腕白少女でいられるん ですね？	2		
T32	さあ、どうでしょう—私はまだ80歳ですが、まだまだ腕白坊主なんです[たくさんの 笑い声と喝采]。		3	6
C34	[笑いながら] コメントしないでおくわ。[沈黙] それで私の結婚に対する気持ちが変わ るのでしょうか。	2		
T33	それは、あなたが自分自身に問いかけている非常に大事な質問だと思います。もし、あ なたの内部のその腕白少女ともっとよい友だちになれば、結婚生活という冒険を少し怖が らずに済むでしょうか。その子はこの18ヶ月間、寂しがってたんじゃないかと思うん です。本当にそう思います。		5	6
C35	[沈黙] まったく、そのとおりです。今、おっしゃったことは問題の核心を突いています。 そして—。	6		
T34	申し訳ありませんが、あと1、2分でやめなければなりません。	×		

Ⅲ. 考 察

この面接は異にはまる恐怖の中で、自信をもつように言ってくれる人を求めるJanに対し、Rogersが直観的に“(あなたの内面の)腕白少女が(話し相手になるのでは)”と言ったことがJanにとって深い意味をもっていると分かったというところで終わっている。そのRogersの対応をTh.V.で評定した。以下、直観的な反応、行き詰まりへの対応、について検討する。また、Rogersに“自分がもっと話したら良いかどうか”と尋ねて面接の主導権をThに預けようとするJanに対してThとしてRogersがどう対応するかを検討する。

1. 直観的な反応—“腕白な少女”発言

T28の反応はJanの発言の流れとはかけ離れた突然の発想の言語化である。これはフェルトセンスを感じているJanに対する仮説提示という意味でTRは5である。Rogers自身はそれが

殆ど新しい展開として感じられている(フェルトシフト)という意味でTMは6である。その直前のT27も同じくTR5、TM5であり、Rogers自身のEXPレベルはフェルトシフトを伴っていないだけで、ほぼ同じ水準にある、ということをまずは押さえておきたい。

T28は直観的であるが、興味深いのはT27も実はその直前のJanの発言(C28)の内容と流れが異なっていることである。C28の前半では“孤独な問題”と言い、沈黙をはさんで笑い飛ばすなどの対処法を話している。ところが次のRogersのT27では笑い飛ばすことには触れず、“でも(But)、別の外部の人がいてあなたに自信を与えてくれることを、本当はとても望んでいるんですね(途中省略)”と述べている。一見Janの発言をButで否定しているかのようであるが、次のJanの発言(C29)からは、Janの直前の発言(C28)における笑い飛ばす対処法の話に内在する、“しかし(But)～”というJan自身の反論をRogersが感じ取っていた(TR5、TM5)と思われる。

これらのことから、いったん Th が Cl の感じを自分のこととして感じる状態が定着すると、Cl の発言の表面上の流れとは異なる論理であっても、それを仮説として提示する (TR5) 限りは Cl の体験過程を推進する、と言えよう。また、対話の内容からすると突発的な発想のようであっても Th 自身にとっては十分に有機的な連関のある発想であり、それが Cl には見えそうで見えない発想の言語化として提示されるのであろう。その意味では、Th は直観的に鋭い発言をしようとするのではなく、TM5 の維持を基盤とすることが重要であると考えられる。

2. 行き詰まりに対して

Jan の話は後半に入っても巽にはまる恐れと、それに対して誰か人がいて欲しいという欲求が何度も繰り返され、堂々巡りの行き詰まりの様相を呈していると言えよう。フォーカシングでは行き詰まりの Cl に対し、フェルトセンスに触れるように直接的な教示を与える (1981) が、Rogers はどのように対応しているだろうか。

Rogers は上記のように T27 ~ 28 は、TR5 を維持しながら内容的には Jan の発言の表面上の内容には沿わない発言をしている。しかし、もっと前の T11 ~ T14 では Jan の発言内容に合わせていわゆる reflection と呼ばれる発言を Rogers は行っており、TR2 ~ 4 の間を動いている。しかし、TM4 を維持している。そして、T14 においては Jan の発言内容に色々なものを感じつつ並べるように提示 (TR4、TM4) する。それがきっかけになり、Jan は C16 で“放棄するという感じとは全然違う。ただ巽にはまる恐れ”と概念化を模索する動きが出てくるのである。ここからも堂々巡りが続くのであるが、いったん概念化の模索の動きが Jan に起こると、Rogers は T15 以後、TR、TM 共に (5、5) が続き、時々 Jan の EXP が下がると、Rogers も (4、4) となる。

つまり、堂々巡りで行き詰まっている時、Rogers は TM4 を維持しつつ、Cl の堂々巡りの内

容にびったりと沿うのである。そして、Cl がフェルトセンスをもとに僅かでも探索活動を始めると TM5 を維持し始める。Jan の僅かな探索活動を捉えた Rogers の中で、Jan と共に探りながら、最終的には“腕白少女”の直観にまで辿りつくのであるから、Cl の堂々巡りに TM4 の状態で沿いつつも、僅かでも探索が Cl に起こるとそこから Cl の動きを共に探るといことが、Cl の行き詰まりに対する Rogers の対応であると言えよう。

3. 面接の主導権

Jan は C8、C11、C19 で“もう少し話した方がよいか”という趣旨の質問をしている。それに対する Rogers の返答が“はい”でも“いいえ”でも、Rogers が面接の流れを決定することになるので、当然 Rogers はそのように答えていない。そして、“あなたが話してくれるとき、それは私のためではない、という感じがする。話すことで、あなたが自分自身をよりよく知ることができれば” (T20) と答えている。面接の主導権に関する Jan の懸念の内容そのものに関して Rogers がそのフェルトセンスを感じ取り、それに基づいた意見を伝えている (TM5)。Jan にとっては、Rogers という権威の意見としてではなく、Jan 自身が奥深く感じていることを言語化されたことになっているので、しっくりきたであろう。

IV 今後に向けて

本稿は字数の関係で直観的な反応や行き詰まりに関する Rogers の対応を主に検討し、TM5 が鍵である等の示唆を得ることができた。今後はさらに Th.V. を用いて Cl-Th の相互作用の研究を進めることが可能であり、それが必要であろう。

引用文献

- Gendlin, E. T. (1964) A Theory of Personality Change. In Worchel & Byrne (Eds.), *Personality Change*. John Wiley & Sons.
- Gendlin, E. T. (1981) *Focusing*. New York: Bantam Books. (村山正治・都留春夫・村瀬孝雄訳「フォーカシング」福村出版, 1982).
- 池見陽・田村隆一・吉良安之・弓場七重・村山正治 (1986) 体験過程とその評定: EXP スケール評定マニュアル作成の試み. *人間性心理学研究*, 4, 50-64.
- Klein, M. H., Mathieu-Coughlan, P., & Kiesler, D. J. (1986) The experience scales. In L. Greenberg & W. Pinsof (Eds.), *Psychotherapeutic Process*. New York: Guilford Press.
- Klein, M. H., Mathieu-Coughlan, P., Gendlin, E. T. & Kiesler, D. J. (1970) The experience scale: A Research and Training Manual. Volume 1. Wisconsin Psychiatric Institute.
- Kirschenbaum, H. & V. L. Henderson (1989) *The Carl Rogers Reader*. New York: Sterling Lord Literistic Inc. (伊東博・村山正治【ロジャーズ選集】(上・下) 誠信書房, 2001)
- Rogers, C. R. (1986) A Client-Centered/Person-Centered Approach to Therapy. In I. Kutash & A. Wolfe (Eds.) *Psychotherapists' Casebook*. Jossey-Bass, pp.197-208.